

CentreCOM® **RG107TX/B** リリースノート

この度は、CentreCOM RG107TX/B をご購入いただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のユーザーマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.2.1

2 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン2.2.0から2.2.1へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

- 2.1 本製品の起動からコールドスタート/リンクアップトラップが送信されるまでの間隔を5秒から20秒に変更しました。これにより、リンクアップに時間がかかる機器が介在する場合に、トラップが途中で消失し、SNMPマネージャーに到達しないことを回避するようにしました。
- 2.2 IPアドレスを設定するときに、先頭に0(ゼロ)を入力した場合も10進数で設定・表示されるよう仕様変更しました。例えば、「192.168.001.010」と入力した場合は「192.168.1.10」で設定されます。

3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン2.2.0から2.2.1へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 SHOW VERSION コマンドのup(sysUpTime)に、正しい時間が表示されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.2 SNMPエージェント機能が無効のとき、本製品宛の通信に応答しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.3 タイムアウトの設定によりログインセッションを自動的に終了させるという処理が数回発生すると、ログインできなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.4 DHCP discover メッセージの送信間隔がRFCの規定と異なっていましたが、規定どおり2, 4, 8, 16, 32, 64 秒間隔で送信するように修正しました。
- 3.5 DHCPクライアント機能を利用してIPアドレスを取得した場合、Renewal(T1)Time経過後にIPアドレスを解放してしまう場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 3.6 ICMP タイムスタンプ要求メッセージのtimestamp フィールドに、IP timestamp オプションをサポートしていないことを示す値0x80000000がセットされていませんでしたが、これを修正しました。
- 3.7 Half Duplex接続されたポートでコリジョンを検出し、16回連続で再送に失敗すると、該当ポートの通信が停止することがありましたが、これを修正しました。
- 3.8 SHOW IP コマンドの Tx errors (送信 IP エラーパケット数) が正しくカウントされないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.9 SNMP マネージャーが2つ以上設定されている場合、本製品起動時にリンクアップトラップが正しく送信されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.10 本製品起動時に送信されるトラップ数が機器全体で最大16個に制限されていましたが、これを修正しました。
- 3.11 MIB II オブジェクト (System Group) の sysUpTime の値が正しくカウントされませんでした、これを修正しました。
- 3.12 MIB II オブジェクト (IP Group) の ipForwarding にサポートされていない値がセット可能でしたが、セットできないように修正しました。
- 3.13 MIB II オブジェクト (IP Group) の ipDefaultTTL に範囲外の値がセット可能でしたが、セットできないように修正しました。
- 3.14 MIB II オブジェクト (ICMP Group) の icmpOutEchos の値が正しくカウントされませんでした、これを修正しました。
- 3.15 MIB II オブジェクト (SNMP Group) の snmplnBadCommunityNames, snmplnBadCommunityUses の値が正しくカウントされませんでした、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 2.2.1 には、以下の制限事項があります。

4.1 SNMP アクセス違反トラップの設定について

- SET SNMP コマンドで AUTHTRAP パラメーターに enable を指定して、SNMP アクセス違反トラップの送信を有効に設定しても、MIB II オブジェクト (SNMP Group) の snmpEnableAuthenTraps に設定が反映されず、disabled (無効) のままになります。ただし、設定ファイルに設定を保存することは可能です。


- SNMP マネージャーからMIB IIオブジェクト (SNMP Group) のsnmpEnableAuthenTrapsの値をenabled(有効)にし、設定の保存後本製品を再起動した場合、設定が反映されずデフォルト値のdisabled(無効)に戻ります。SNMPアクセス違反トラップの送信を有効にする場合は、コマンドラインインターフェースからSET SNMP コマンド(AUTHTRAPパラメーターにenableを指定)を実行してください。

4.2 SNMP トラップの送信について

 **「ユーザーマニュアル」 3-11 ページ**

SNMP エージェント機能が無効の状態では本製品を起動した後、設定を有効に変更した場合、コールドスタート/ウォームスタート/SNMPアクセス違反/リンクアップ・ダウントラップのいずれかのトラップの送信を機に、トラップが2個ずつ送信されるようになります。

4.3 ポート番号の指定について

 **「ユーザーマニュアル」 3-2 ページ**

ポート番号(PORTパラメーター)に10以上の数字を指定してコマンドを入力した場合、エラーが返されず、以下のように認識されてコマンドの実行に成功します。

例: port=12 → Port1


port=22 → Port2

ポート番号(PORTパラメーター)に1～8以外の数字を指定しないようにしてください。

5 マニュアルの補足


付属のユーザーマニュアルの補足事項です。

5.1 SNMP マネージャーの設定について

 **「ユーザーマニュアル」 3-12 ページ**


SNMP マネージャーの設定(登録・登録解除)は、本製品の再起動後に有効になります。

5.2 FTP/TFTP によるバージョンアップについて

 **「ユーザーマニュアル」 4-2 ページ**

FTP/TFTPを使用してソフトウェアをバージョンアップする場合は、ファイルのダウンロード終了後、本体上面のSYSTEM LEDが消灯していることを確認し、本製品を再起動してください。なお、Xmodemによるバージョンアップの場合、再起動の必要はありません。

5.3 無効のポートでの受信パケットカウンターについて

 **「ユーザーマニュアル」 3-5 ページ**

SET PORT コマンドで無効に設定されているポートでパケットを受信した場合、受信パケットカウンターが1個カウントされます(実際にパケットが転送されることはありません)。

5.4 SNMP アクセス違反トラップの設定について

ソフトウェアバージョン2.1.0 から2.2.0 へのバージョンアップにおいて、SNMP アクセス違反トラップ送信の有効・無効を設定するための以下のコマンドが追加されました。

使用コマンド

```
SET SNMP [AUTHTRAP={enable|disable}]
```

パラメーター

AUTHTRAP : authenticationFailureトラップ(SNMPアクセス違反トラップ)送信の有効・無効。enableで有効、disableで無効になります。デフォルトは無効です。